

【演技指導・演出】 シュテファン・グレーグラー Stephan GRÖGLER

演出家、舞台美術家。

ウィーン大学で演出を学ぶ。

1995 年から 98 年まで、リヨン国立歌劇場の専属演出家を務める。演出家および舞台美術家として、ナタリー・デセイの出演する『夢遊病の女』をはじめ、『ラ・ボエーム』、『青ひげ』、『椿姫』、ボーマルシェ三部作（ロッシーニ、モーツァルト、ペケー）、『ロラン』、『月に憑かれたピエロ』などの作品を上演。 ボローニャ歌劇場、ブリュッセルのモネ劇場、ジュネーブ大劇場、パリ・オペラコミック座、サンタフェ音楽祭にも携わる。

カール・ラガーフェルドやフェルナンド・ボテロとも協働し、パリ、ニューヨーク、ロサンゼルスでヴァンクリーフ&アーペルやカルティエの広告をデザイン。

2010 年には、表現の領域を広げること、また音楽プロダクションに「新しい命を吹き込む」ことを目的として、現代美術や最新のテクノロジーのさまざまなトレンドの第一人者たちとコラボレーションし、魅力的なプロダクションを上演するための自主団体 OperAct を設立。

さまざまな場所（現代美術館、都会の荒地、公共スペース）を探求し変形させるこの型破りな芸術形式の統合は、世界中からの若く好奇心旺盛な観客を引き付けることを目的としている。

最近のプロジェクトとしては、『結婚手形』『白いバラ』『ピーター・グライムズ』『利口な女狐の物語』などのプロダクションがある。